

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<p><エントリーシート></p> <p>※ 事務局 記入 欄</p> <p>No. : D - 2</p>	<p>部門</p> <p>先導的プログラム実践部門</p>	<p>学校名・氏名</p> <p>岐阜大学教職大学院</p>
<p>活動名</p> <p>学校管理職養成実習の開発 教職大学院と教育委員会の協働より</p>		
<p>課題の設定：</p> <p>日本には学校管理職を養成するシステムは存在せず、学校経営に関する学修のないまま、赴任校でいきなり学校経営業務を担当する。学校管理職を養成するためのシステムとコンテンツの形成が求められる。</p> <p>そこで、岐阜大学教職大学院は岐阜県教育委員会と連携して、学校管理職になる前の教員を対象とした計画的な養成に取り組むことにした。具体的には、岐阜県教育委員会から派遣される教頭登用試験合格者等の現職教員を対象とした「学校管理職養成コース」を教職大学院に設置し、学校経営専門職養成のためのカリキュラム開発に臨んだ。</p>		
<p>方針・計画：</p> <p>カリキュラムの中で最も重視したのは実習であり、実習を通して学校管理職としての实际的・実践的な資質能力をどのように形成するかが課題とされた。そのため、岐阜県教育委員会及び関係市教育委員会、学校と協議を重ね、①校長との連携（校長の経営方針の理解、校長とのコミュニケーション・進言）、②諸問題対応（情報収集、問題や危機の解決能力）、③教職員との連携（経営方針の具現化のためのコミュニケーション）を養成目標とした実習プログラムを開発した。</p>		
<p>活動内容：</p> <p>教育行政実習（1年次 8月～9月、90時間） 学校経営実習Ⅰ（1年次 2月～3月、90時間） 学校経営実習Ⅱ（2年次 4月～6月、120時間） 上記実習を実行し、実習生評価と所属校評価から、その検証を行う。</p>		
<p>活動の成果：</p> <p>実習者は、学校経営Ⅰで教頭のシャドーイングやヒアリングを通じて、教頭の職務を理解し、学校経営Ⅱで第二教頭として配置され、実際の業務を遂行する中で、課題解決に取り組んだ。このような実習を通じて、実習者の報告から、校長の学校経営の意図を理解し、それを実現するために、教職員に働きかけ、また諸問題対応のための情報収集や分析を行ったことがうかがわれた。2月の岐阜大学シンポジウムで、実習者の報告とともに、実習校や教育委員会と議論し、成果と課題を明らかにする予定である。</p>		
<p>アピールポイント（アイデアや工夫）：</p> <p>全国初の学校管理職養成実習として、他の教職大学院での学校管理職候補者対象の実習に活用できる。また、教育委員会における新任学校管理職研修（新任教頭研修、新任校長研修）にも活用できる。</p>		

